

■作家プロフィール

アネケ・ヒーマン&クミ・ヒロイ

Anneke HYMMEN & Kumi HIROI

アネケ・ヒーマン：1977年ルーデンシャイト（ドイツ）生まれ、オランダ在住。2005年 AKI アート&デザイン・アカデミー 写真・モノメンタルアート学科卒業。

クミ・ヒロイ：1979年岐阜県生まれ、オランダ在住。2002年埼玉大学経済学部卒業、2008年ヘリット・リートフェルト・アカデミー グラフィックデザイン学科卒業。

主な展覧会に、2017～2018年「Remodeling」Melkweg Expo（アムステルダム）、Maison/ by Teruhiro Yanagihara（大阪）、State of Fashion（アーネム、ベルリン）、2019年「真珠の輪郭・Parel Silhouet」長崎オランダ村、長崎県美術館、IMA Gallery（東京）。

潮田 登久子 Tokuko USHIODA

1940年東京都生まれ、東京都在住。1963年桑沢デザイン研究所リビングデザイン研究科写真専攻卒業。主な展覧会に、1995年「写真都市 / TOKYO」東京都写真美術館、2004年「まほちゃんち」水戸芸術館現代美術ギャラリー、2018年「土門拳賞受賞作品展 本の景色 / BIBLIOTHECA」土門拳記念館（山形）、ニコンプラザ・The Gallery（東京、大阪）、2019年「アカルイカテイ」広島市現代美術館。受賞歴に、2018年「第37回土門拳賞」、「日本写真協会賞」作家賞、「第34回東川賞」国内作家賞。

片山 真理 Mari KATAYAMA

1987年埼玉県生まれ、群馬県在住。2010年群馬県立女子大学文学部美学美術史学科卒業。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。主な展覧会に、2013年「あいちトリエンナーレ 2013」納屋橋会場（愛知）、2016年「六本木クロッシング 2016 展：僕の身体、あなたの声」森美術館（東京）、2017年「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」東京都写真美術館、2019年「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ」。受賞歴に、2005年「群馬青年ビエンナーレ」奨励賞、2020年「第45回木村伊兵衛写真賞」。

春木 麻衣子 Maiko HARUKI

1974年茨城県生まれ、フランス在住。1997年玉川大学文学部芸術学科卒業。主な展覧会に、2011年「日本の新進作家展 vol.10 写真の飛躍」東京都写真美術館、2014年「あざみ野フォト・アニユアル 写真の境界」横浜市民ギャラリーあざみ野、2017年「vision | noisiv」TARO NASU（東京）、2018年「Moment- 時間のかげら」群馬県立近代美術館。受賞歴に、2008年「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」特別賞（審査員：伊藤豊雄）、2015年「第31回東川賞」新人賞。

細倉 真弓 Mayumi HOSOKURA

1979年京都府生まれ、東京都在住。2002年立命館大学文学部卒業、2005年日本大学芸術学部写真学科卒業。主な展覧会に、2012年「Transparency is the new mystery」関渡美術館（台北）、2016年「Cyalium」G/P gallery（東京）、「Close to the Edge: New photography from Japan」Miyako Yoshinage（ニューヨーク）、2017年「Jubilee」nomad nomad（香港）、2018年「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家展 vol.15」東京都写真美術館、2019年「NEW SKIN | あたらしい肌」mumei（東京）。

SHISEIDO GALLERY

アネケ・ヒーマン&クミ・ヒロイ、潮田 登久子、片山 真理、春木 麻衣子、細倉 真弓、そして、あなたの視点

会期：2021年1月16日（土）～4月18日（日）

平日 11:00～19:00 日・祝 11:00～18:00 毎週月曜休（月曜日が祝祭日にあたる場合も休館）

主催：株式会社 資生堂 助成：オランダクリエイティブ産業基金

協力：一般財団法人東京アートアクセラレーション、PGI、TARO NASU、TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT

■踊り場

細倉 真弓 Mayumi HOSOKURA

上「newskin #65-1」

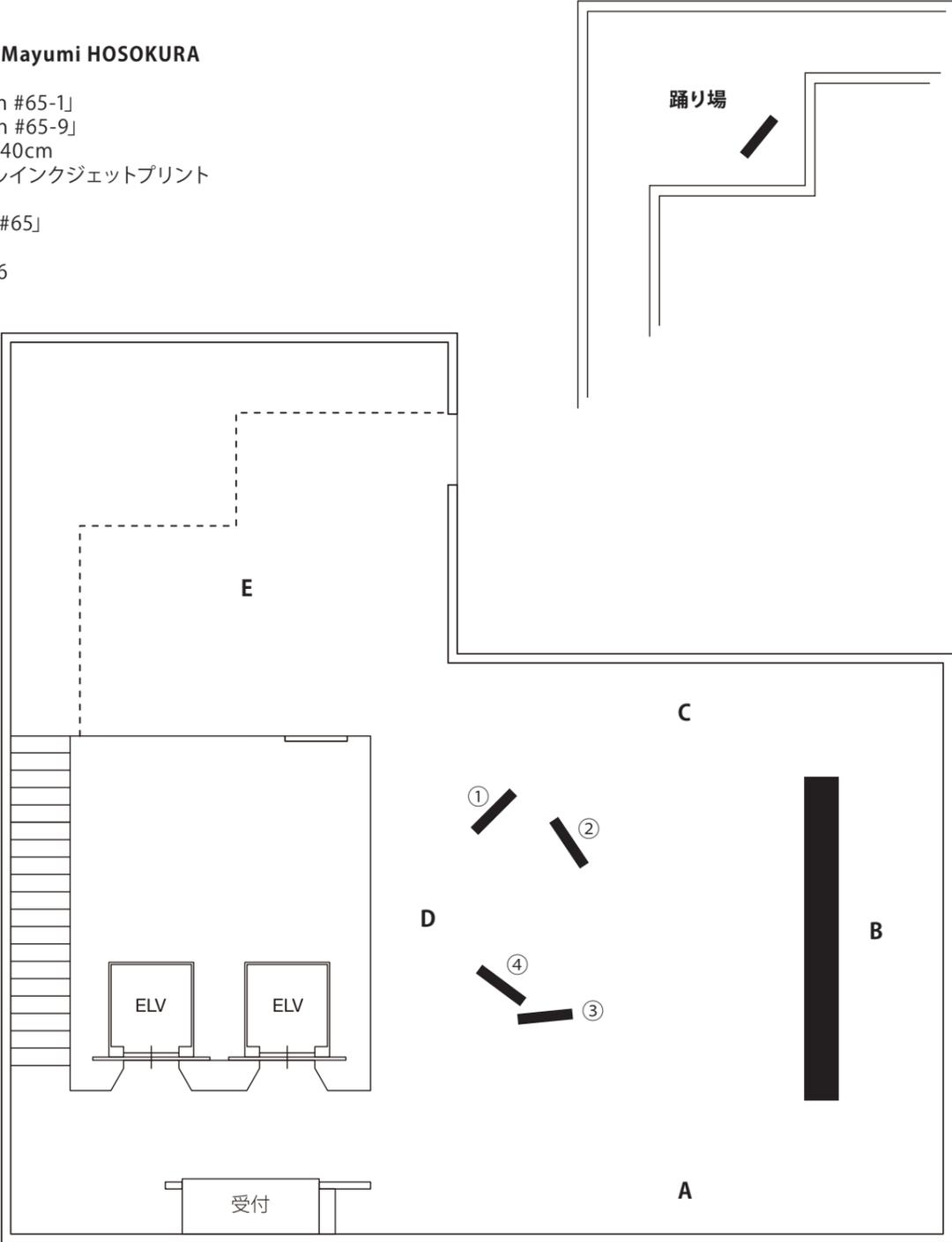
下「newskin #65-9」
2019 40×40cm
アーカイバルインクジェットプリント

「newskin #65」
2020
映像 04:46

本展覧会を開催するにあたり、多くの皆様に温かいご支援とご協力を賜りました。
心より御礼申し上げます。（五十音順、敬称略）

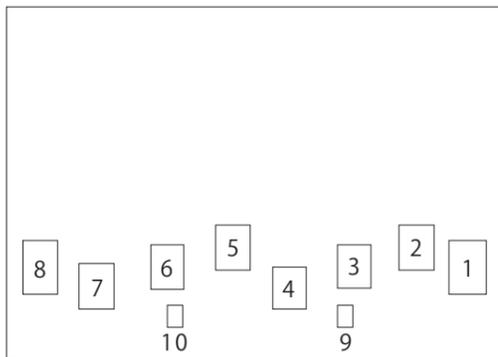
有吉英、リン・アルント、伊藤成代、伊藤俊治、ローレンス・エゲタ、大竹昭子、岡田豊日、小川貴之、気谷誠、桑原果林、桑原真理子、エスター・ゴールドスタイン、島尾伸三、嶋津充、ミケーレ・セッチ、高橋朗、西田祥子、ポリー・バートン、深谷圭助、前田美波里、サローメ・カゼゼ・マンゴ、パメラ・ミキ、光田由里、ロクサンヌ・ミンテン、ララ・ラリッサ、横須賀安理、横須賀功光

Akio Nagasawa Gallery、かごしま近代文学館、国立国会図書館、株式会社ジンプラ、TARO NASU、一般財団法人東京アートアクセラレーション、株式会社東京印書館、株式会社東京スタジオ、TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT、新座保存書庫、農科 專業白蟻防治所（マカオ）、PGI、Photographer's Laboratory、Fotolab kiekie、プリントSTUDIO、明治学院大学図書館、立教大学図書館、早稲田大学図書館特別資料室。



■A
アネケ・ヒーマン&クミ・ヒロイ
Anneke HYMMEN & Kumi HIROI

「Remodeling *Shiseido Gallery edition*」
 2020



- 1 「右半分」
2020
執筆:大竹昭子
- 2、4、5、7 「Remodeling *Shiseido Gallery edition*」
2020
52.5×35 cm
Cプリント
- 3 SHISEIDO アルティミューン
「超えていこう。明日はもっと美しい。」ポスター
2020
撮影:セバスチャン・キム モデル:前田美波里
- 6 資生堂ビューティケイク「太陽に愛されよう」ポスター
1966年
撮影:横須賀功光 モデル:前田美波里
- 8 「まぶたの裏側」
2020
執筆:大竹昭子
- 9 ヒーマン&ヒロイによる対話

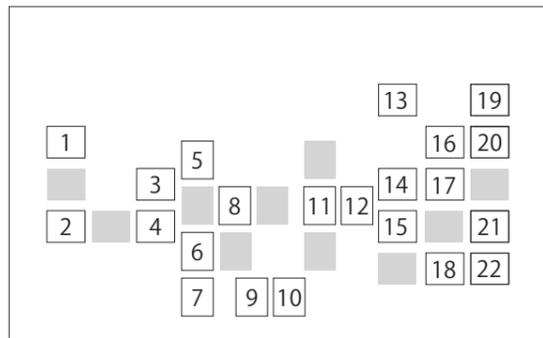


- 10 ヒーマン&ヒロイによる対話



ポートレート写真家として20年以上の経験を持つヒーマンと、グラフィックデザイナー／アーティストとして活動するヒロイによるコラボレーションユニット。2014年から既存の広告を作り変える「Remodeling Project」に取り組み、人々が「広告」から受け取る女性像、消費、ファッションへの固定概念に対して、写真と文章を通じて多様な視点を投げかけます。本展では、資生堂の広告を見た人が「なにが見えるか、なにを感じるか」表現した言葉をもとに、ヒーマン&ヒロイはその広告を見ないまま、写真を制作しました。その写真にインスピレーションを得て大竹昭子氏が執筆したショートストーリーとともに展示します。ヒーマンとヒロイが言葉から写真を制作する際に交わした対話は、QRコードよりご覧ください。

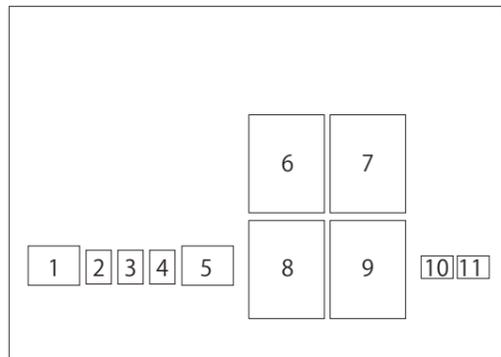
■B
春木 麻衣子 Maiko HARUKI



- 1 「okinawa 03」2012 25.4×30.5 cm
 - 2 「okinawa 04」2012 25.4×30.5 cm
 - 3 「okinawa 01」2012 25.4×30.5 cm
 - 4 「okinawa 02」2012 25.4×30.5 cm
 - 5 「I never know that I know 08」2020 30.5×25.4 cm
 - 6 「I never know that I know 07」2020 30.5×25.4 cm
 - 7 「I never know that I know 06」2020 30.5×25.4 cm
 - 8 「I never know that I know 01」2020 30.5×25.4 cm
 - 9 「I never know that I know 05」2020 30.5×25.4 cm
 - 10 「I never know that I know 04」2020 30.5×25.4 cm
 - 11 「I never know that I know 03」2020 30.5×25.4 cm
 - 12 「I never know that I know 02」2020 30.5×25.4 cm
 - 13 「みることについての展開図10」2014 25.4×30.5 cm
 - 14 「みることについての展開図05」2014 25.4×30.5 cm
 - 15 「みることについての展開図04」2014 25.4×30.5 cm
 - 16 「みることについての展開図01」2014 25.4×30.5 cm
 - 17 「みることについての展開図02」2014 25.4×30.5 cm
 - 18 「みることについての展開図03」2014 25.4×30.5 cm
 - 19 「みることについての展開図09」2014 25.4×30.5 cm
 - 20 「みることについての展開図08」2014 25.4×30.5 cm
 - 21 「みることについての展開図06」2014 25.4×30.5 cm
 - 22 「みることについての展開図07」2014 25.4×30.5 cm
- 全て Cプリント

春木は、露光を過剰にオーバーまたはアンダーにして撮影し、白または黒の大胆なコントラストによって画面を構成します。近年は、印画紙上で異なる風景を重ねて現実には存在しない空間を作り出すシリーズを展開していますが、一貫して「見る」行為に関心を持ち、制作しています。本展では、「境界」をテーマにした新作インスタレーションとして、壁を作り、その裏面のみに写真を展示しています。壁に開けられた穴からは何が見えますか?鑑賞者が想像、思考すること、それ自体が作品ではないかと問いかけるようです。

■C
片山 真理 Mari KATAYAMA

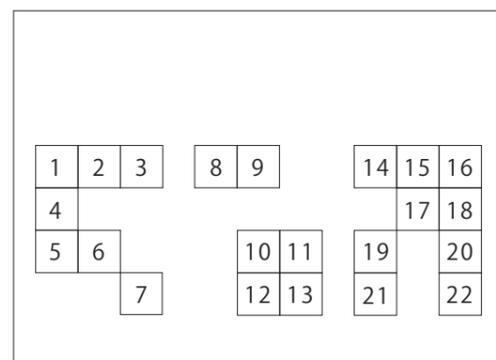


- 1 「shadow puppet #001」42×56 cm
- 2 「shadow puppet #002」30.5×22.9 cm
- 3 「shadow puppet #013」30.5×22.9 cm
- 4 「shadow puppet #012」30.5×22.9 cm

- 5 「shadow puppet #010」42×56 cm
 - 6 「shadow puppet #016」133×100 cm
 - 7 「shadow puppet #017」133×100 cm
 - 8 「shadow puppet #014」133×100 cm 嶋津充氏蔵
 - 9 「shadow puppet #015」133×100 cm
 - 10 「Renaiss Hall #004」22.1×29.5 cm
 - 11 「Renaiss Hall #003」22.1×29.5 cm
- 全て2016 Cプリント

片山は、先天性の四肢疾患により9歳の時に両足を切断し、身体を模った手縫いのオブジェや立体作品、装飾を施した義足を使用しセルフポートレート作品を制作しています。自身の身体を起点に、糸と針を用いて他者、社会、世界に繋がる様々な境界線を縫い繋げてきました。本展では、二本指の左手をモチーフとするオブジェと戯れるように撮影した「shadow puppet」を中心に、1922年に旧・日本銀行岡山支店のために建設され、現在は文化施設として利用されている「Renaiss Hall」で撮影した作品を展示しています。

■D
細倉 真弓 Mayumi HOSOKURA



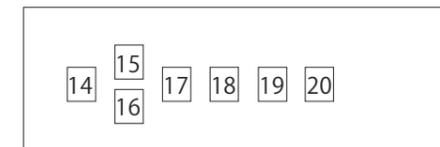
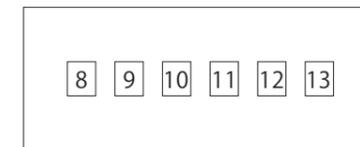
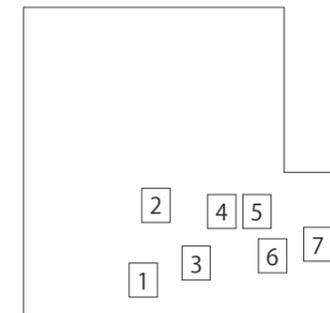
- 1 「newskin #35-1」
 - 2 「newskin #35-2」
 - 3 「newskin #35-3」
 - 4 「newskin #35-4」
 - 5 「newskin #35-7」
 - 6 「newskin #35-8」
 - 7 「newskin #35-12」
 - 8 「newskin #37-1」
 - 9 「newskin #37-2」
 - 10 「newskin #37-8」
 - 11 「newskin #37-9」
 - 12 「newskin #37-11」
 - 13 「newskin #37-12」
 - 14 「newskin #59-2」
 - 15 「newskin #59-3」
 - 16 「newskin #59-5」
 - 17 「newskin #59-6」
 - 18 「newskin #59-7」
 - 19 「newskin #59-9」
 - 20 「newskin #59-10」
 - 21 「newskin #59-12」
- 全て2019 40×40cm アーカイバルインクジェットプリント

- ① 「newskin #35」2020 映像 05:02
- ② 「newskin #scan」2019 映像 04:12
- ③ 「newskin #37」2020 映像 04:37
- ④ 「newskin #59」2020 映像 05:15

細倉は、身体の表象をベースに人種や国籍、人と植物や機械、有機物と無機物など「かつて当たり前であったはず」の境界を再編する作品を制作しています。「NEW SKIN」は、作家が男性の身体表象として強く影響を受けたゲイ雑誌の切り抜きや男性の彫像、ネット上のセルフイー画像等をコラージュし、更に分割・再構築することで、境界について問う試みです。写真と

対になる映像では、細倉が12分割される前の写真をデータ上で辿る様子を記録しています。展示された写真と映像は補完し合って元の写真を提示しますが、一目では全貌を把握することはできず、「見る」ことの困難さを示すようです。

■E
潮田 登久子 Tokuko USHIODA



- 1 「本の景色/BIBLIOTHECA」2008
 - 2 「本の景色/BIBLIOTHECA」2012
 - 3 「本の景色/BIBLIOTHECA」2020
 - 4 「本の景色/BIBLIOTHECA」2007
 - 5 「本の景色/BIBLIOTHECA」2007
 - 6 「本の景色/BIBLIOTHECA」2007
 - 7 「本の景色/BIBLIOTHECA」2007
 - 8 「本の景色/BIBLIOTHECA」2003
 - 9 「本の景色/BIBLIOTHECA」2003
 - 10 「本の景色/BIBLIOTHECA」2003
 - 11 「本の景色/BIBLIOTHECA」2003
 - 12 「本の景色/BIBLIOTHECA」2008
 - 13 「本の景色/BIBLIOTHECA」2003
 - 14 「本の景色/BIBLIOTHECA」2005
 - 15 「本の景色/BIBLIOTHECA」2005
 - 16 「本の景色/BIBLIOTHECA」2006
 - 17 「本の景色/BIBLIOTHECA」2000
 - 18 「本の景色/BIBLIOTHECA」2020
 - 19 「本の景色/BIBLIOTHECA」2010
 - 20 「本の景色/BIBLIOTHECA」2010
- 全て40.64×50.8 cm ゼラチンシルバープリント

- 21 撮影メモ



潮田は、様々な家庭で実際に使われている冷蔵庫を記録した「冷蔵庫/ICE BOX」や、20年以上に渡って図書館や個人の蔵書、出版社の編集室等にある本をオブジェとして撮影する「本の景色/BIBLIOTHECA」で知られる写真家です。本展では、「境界」や「女性」をキーワードに、「本の景色/BIBLIOTHECA」から20点を展示します。写真に写る本の佇まいからは、物の背景や作家との関係性が伺え、他者との境界が浮かび上がります。各作品を撮影した際の潮田によるメモはQRコードよりご覧ください。